

風流真蹟

古今勇士評判

18
2873
1



2873
1

天下と書入

後送の棟梁、川口守重

樽太鼓、丹波明智光秀

風流真蹟記

和書

天保文庫の書は、是れ小正の書也

附、乃、各、抄、ひ、と、挿、入、す

曾、其、以、大、入、り、目、と、尋、る

以、予、の、藏、本、と、相、校、す、其、不

悦ひのりや介し事ししと
一騎追乃大將に海賊治ふ
之を更々府に於て業を
争ひ断はと心治しさばと
あふの事いふしと直さり
鼎負うるも書し是居乃
ちし青板と入るとあふ
魚子そら軍持海人所
年五十一枚指れり代記と

配りし軍持の標題と
させし居席ふりしと
んる業あらん軍書と
きついでいしやと武人乃
おゆりし軍持と是居の題と
うししとさしとさしと
実派中しんぬ淫古の事
かきば知とふりの事
法もや是居し林道と守ふ
守屋も無りしと云ふ事
叙しなりしと種我の馬ふ

まぬりあせしとに法海依
小あらんまに居るもあ
公名古屋法陣少くお國と云
あ小作舟らよとく具はる
しうらとあ傍く慧昌
も母し波若の淨刹つちあ
お板とまらあふと法圓太
平れとさけし也も中下流
小六とまねまあおれもあ
あんとりくもあすも
小六とあ人の信にあんと

あしうくとあせらあわも
真乃古人乃淨刹も淨刹の
ゆとあらん波の心あ
あんとりくあも目も
淨代あをりあつと危

作者竹之

山崎南の美原野が胆栗秀乃
山崎山乃美原野が相智亮秀乃

名代 小田信長

○ 立役く部

巻首

至上吉



中河瀬平 羽葉丸

上吉 徳園のなごり砂

本上吉



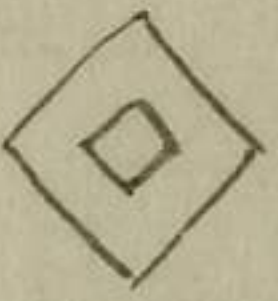
亦原蔵助 羽葉丸

思ふ玉ねふあけり川 三輪

上吉



坂尾彦助 羽葉丸



坂休彦 日

天子心の徳ハ下ハ八重と反葵のこ

上上吉



坂友虎助 羽葉丸

一原まきくも色合を流し 夕魚

上上吉



坂友任直吉 羽葉丸



坂友大平 日

親名親をアヤコト 小智

上上吉



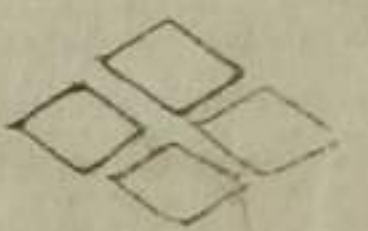
三浦右近 羽葉丸



高村由勝 日

切と競ふと六ぼうが柳 榎川

上書

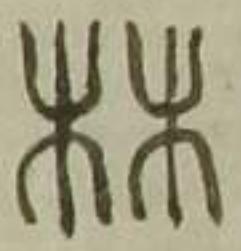


瑞虎近

羽素丸

物乃ありふはチ又と

麻山



林才四郎

明吉丸

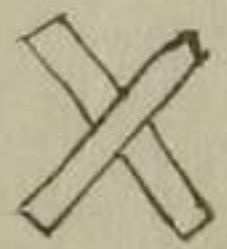
上書



森相長

羽素丸

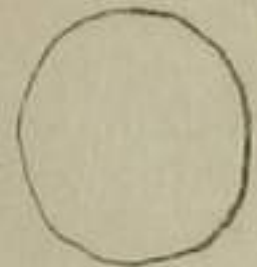
荒木此すまうさいそけい梅乃田村



芝角吉丸

羽素丸

上書



東田助吉丸

人いのほいふいもど軍切と

政威

上書



柳野平

羽素丸

流中と志いのい〜い〜い〜

錦林



後友太夫

羽素丸

上書



中河小太夫



中川剛助丸

つとがいのい英い勇い〜い〜い〜 巻指

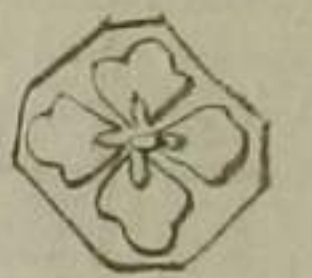
上書



山石斎

明吉丸

上

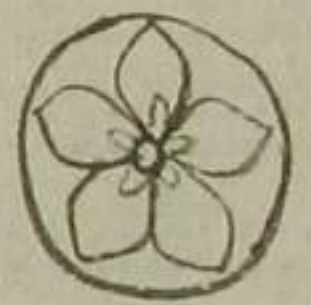


有田傳若 明皇元

河川くん自害乃

松山境

上



明智左衛門 明皇元



淺尾左衛門 同

志保ふらふら 丹波

上



神部三七 明皇元



塩川傳若 同



清田与三 明皇元

第一乃大乃

名一母

上



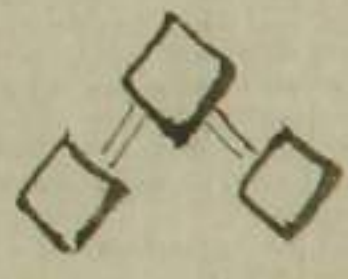
行桐左衛門 明皇元



行桐助 同

名乃とし小具床 行桐物

上



三宅友玄 明皇元

稻

稻次百 同

母名使乃自源 筑城の三胤 筑

上上



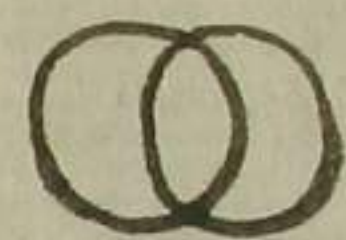
海防市松 羽葉丸



松山之水月

山崎一折付の残のを 道

上上



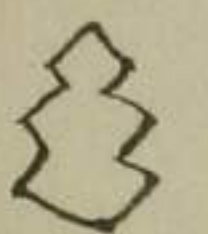
眼坂志月 羽葉丸



桂市志月

西の福を引くを合々 二人坊

上上



井利市志月 羽葉丸

云々の事ありありありあり 八一

羽葉丸 明多丸

上 牛の非未脚上 谷田帯り

上 峰谷出羽上 釜河坊坊

上 大谷志月上 進上継れあ


上 精在由あ 村越志月

上 橋井依台 三定跡席

上 遠美志月 任地志月

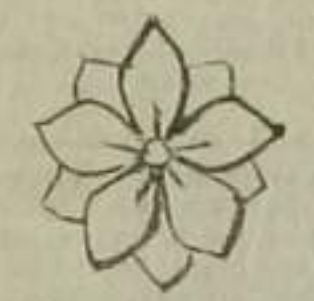
上 富仁志月 奥田志月

王の巻袖

大上吉  明智丸馬助 明智

あま進後不替田不掛渡せし 舟橋

美也巻首

功上吉  明智光秀 元中

天下の事し七日殺候をそと 那部

欽波部

上上吉  筒井順意 元中

欽味るる丸くくんおん 白紙

上上  小田七之丞 元中

旗ぬらりし未之り 竹乃右

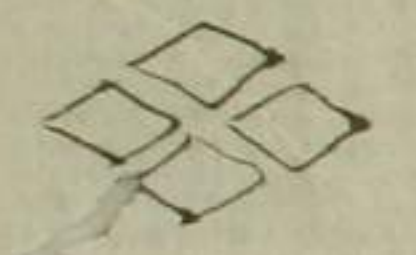
 空美佐馬守 元中

上上

船 松田之丞 元中

軍配の先小すくみく 櫻之礼

上上  村上和泉守 元中

上上  源清光 元中

世
上

上



雷電

羽衣

羽衣のほろひもさうりぬりぬり

馬渡

上吉



大麻毛

羽衣

羽衣のほろひもさうりぬりぬり

上上



猿栗毛

羽衣

一法遊汗水毛も度徳のふり

道外

上上



浅草

羽衣

坊主小ぬいり虎の道一毛

上



入江長糸

同

紙乃仇と再度と 教生ふ

物巻袖

上類



羽衣

法名三圓

雷電

既不出

上上吉

浦生丸海の味素

上上

喜林日武 以也七

上上

口方天又素 同

上

鹿本城子 同

上上

羽流雲の 日

立役部

卷首

至上吉



中河瀬平

相葉元

既

至とんくせふかを雷み

か〜と先中川氏の洋り

は掛つて外 既 母友やた馬ゆら

とよすふど 既 毛ふとい〜〜が

つたつと升たつ師友林友氏の

ら名を以てし〜の〜〜〜

ますと〜〜の済会誠意版乃

一書南つと中川氏で〜〜

ます〜〜の事成りて〜〜

中 むじや〜〜の洋りや〜

既 清素の友〜〜の撰別

神ノ殿と心と金と帛と合銭
と僅く秀吉傳中か池と
くくふ亦く定まらぬ所の
危難の度徳も之近く
坊主の成りいし村人
四六誰と笑せし小信秀吉
事し大ねくふ若難し
けふも坊主は相く
事やあふれ未だ母か
すしふしと物為市松と
中名ねる事とくく危難と

まぬうとあひし事と既し
比田橋之平を度ふ小田と
乃道長のみあき入道
かアしなしくやと
しと入ぬりし事と
さみすふといふ事と
事しし村秀吉の只れ
やアし浅野八重のちあ
とくく之とくくいし
秀吉くくくく誠信
八重のくくくく法士秀

右の海軍と感し中河の
ふあせしとさふ事あり
と評判くし併合戦し
二陣とさし先陣さしか
本戸と相あやむるに
後守相部が右備右田傳者
浜田内友之牧村と佐野未が
隊りかへし軍主と云
けし小隊の二百人と川津
右備之子傳人しとら合切
為さし働ささ評判し

池しきしと事之牧助を
と一海小隊面をさす人
隊りし自身二百人さす伏
二百人備りしと有るに
色紙し併合戦の後園に
中川氏かよとさはれり
さ名夫取も以しと事し

天守と付るに併し併合戦
とり合ふし六が併合
まし合戦終りて併し併
併合軍切と漢し併合

就をも原の就切く奇る
終久のついでに討つるに
産ふ者なき中川に骨折
くく接好あること小勢の
無事なるや天下と我相
かしくなるに就つては
多れはぬけりあはれ人を
二のうらりなる相とけいせん
得るに概し候へばしと
と年乃のいも物とゆく候
まふ

本上吉



林有内の助の筆

○ 弘邦ふとく寸先邦ふと
所くすと利之友ハ道之乃
甥ふく濃州 林友ハた
出物ふとく武勇乃中ハ
こふにさりましこが也
とくハたは竟典滅亡の時
より始ふハ一後世ふとく
才とたのせ所くましこ一後
林有内と作利之と結成

せしむる光秀小随方
流さるるに惜しむ信長三
内藏助がゆふと取とく小
うり信長咽喉を刺すと
ゆふつさばりけりふと
刺しを光秀の仁む多うと
念しゆふ赤十字信長是
と懐く是より光秀と指
と物りふとく小舟光秀
を品まると信し取返し
は流らるる二系室町の城

信長父と討あつせし
くはつとく内藏助を
紀つし奉取つ二の懸身
成室町乃城攻の村小田
赤坂長竜と討せ此丹州
八上乃城まゝ成居る
くしく光秀の清れまは
具川まるとおもふ名
ゆふ赤坂のまゝ内藏助の
先陣とくつとあつ味
法政方の勇まると増五郎の

大南の事と云ふん、考ゆへと
こつりから中傷を致し
先陣より南におりてと
林敷と中傷のまりの
定りらふ判ごみ月土百の
眺山清しと傷と雲の月
思ひかゝつてさ乃傷と舟楫
を修つて洞流の尚舟の
陣とく定りまゆりて美常
とゆふを先考の存法と
をくすさるくしと致し

地理とをえんはふ、
舟と二百中つとみくえ
も乃三隊みそ月志の致し
あとも地のはとく通川
小舟の結と日中とゆらと南
舟と二百とまゝに地志の
働さ地のはとく通川
威し結とくあ合致れれ
とすふとまゝに舟舟
此ゆへ、裏よりれ物致あり
おと、あさるあさる軍の治さ

始はも病ううもあし
お場とせく丹波の川を
谷徑とまきく無い小籠城を
包しあれたるん明船
た馬助とあつ干筋あつと
お人のお場と川と坂と小
籠城とくく来いお場と
出り居し合戦はく明葉
お場いりくも内あ生し
味もすふはあも有く北
あ系小葉くくくくく時

先考おあしあつあ
とこし力く迎つてしおと
傳ふ小利之悲涙し惟任
乃て今今日よあちりら度
諒のく徳とす進もあ子の
道はく遊こふも古の乃也
今一計ととくくあ
うら死せんく我傷あ人の目
子くとあ大はくくあ葉田
源はあくけしああああ
と今も葉し菊井もあ切の

時ふ意小切高とく〜ト
合の傷と押か〜家、後代乃
懐籠ほろ少く天晴の河姑あふたは是
らと羽菜乃先陣はつらさうら河川
致い二府まを切高〜街
利と好是角の智小お合
うら高と〜ハ〜く〜乃
あい大主考しや 三 光秀
内藏物ゝ赤と〜一題いあを
始流と知す急〜故水と
あふ海〜河をく 四 叔

其内下中川、あ小右備く
高と〜く〜り〜大軍入乱と
攻走小及い〜討拵つあ
立合津田茂内兄身と切捨
同又藏と人孫日松井新物
桂福を方さ外すあ人と討
北二十餘人〜と負勢
拵つ拵と進高と〜と
を刀お〜云も負すゆ智
たの一人をさあ 五 中
う行とあ人が筒井と裏切が

先考播磨と云ふと越後
軍と云ふとよく討死し
らとそり云明くはつは
一子任直と判官と云ふ
ふと故の場（原）あり
其才も遠境と既許淀川
と云ふはありき今下が
河の夫と云ふのはおて
るヒナキと云ふとら迷う
事なくいれり云ふは
そくくろくすむの生れし

知と云ふればと云ふ
いふも一々考るに大の
恨んと判官いひふも是と
わと雲田と云ふと云
是と云ふと生駒と云ふ
はいま一々四六考るに
晋の海浪りかろ忠長と
考るの前と云ふ討死
と云ふはつと云ふと
云ふと云ふと云ふと
云ふと云ふと云ふと

競ひのしし事而士の亦
存を知らずまゝの海濱を
くこひまふ守石田も少く
表面の作の少く秀吉も本
利害とどうもまゝに作
作是より意恨しおぼざる
中々平家と違へ秀吉
乃切腹に候ふことと用い
寸光あり同飛へゆふと
死に刑府の討討争の神世
悉くこゝろ秀吉も技物の

仁恵と云らとくく仁のふま
情い少く天候を主事

堀尾藤助

羽幕元

上上吉

堀休三平

立去乃池田や天候ふらそ
ど小平家もや政元の子也
遠くふらふ以九四むくら清
合戦乃飛とある光も何と
御さうおち息をいぶらしませぬ

美の利り夫まの先鋒は
きまふ小嶋留中より軍
勢とよんぬ先をまらと
とら^し洋原ふし知すし松の
と打消晴夜く押さくふ
東のしつ嶋智丸松田が
あめさくしつさくふ
各所くふしつ嶋体きあ
河邊舟ある巖を現い松田が
勢ふ後炮と少掛お返天まら
と西洋核まら臨合とん合

村又く洋原まのしつ嶋人
奪うしあふふ小嶋進をほし
天晴の初う叔嶋智丸の大浦く
中へ核まふ後炮と打さくし
ゆきさく軍しつ嶋大ねとは
深くしつ嶋くあ天まらと
水とくしつ嶋地の中し嶋園と
揚ふまふそまらくし嶋夜が
うらし嶋園揚ふし嶋業の負と
外んを嶋業の大浦としつ嶋
あて嶋くまら小嶋さくし嶋

夫改名も因りて城尾の如
大し物も松田大平丸の如く
あるも名も此位の上より因
りて中城氏の大平井なる
漢もたる助が二百人ほどの
替ふも百人と云く其切高
又感返しし村林某年一人
うらまへし因りて改名
しと云ふ事いふ事いふ事
さしししししし感返し
石田某と云ふ馬助海と云

色あり物智方人しゆり付
死し城氏指圖と云く
坂本の先後某事あり外
坂本少く物智先後の生合
先後心と感しし魚討お
師しし二万の立者此物
をりしうりたが大体の
身と某事しはと云ふ
後これ少く物と云く
四つあり

上上吉

如友虎助 明業七

元元 眞負の法正 元元 法正の振
治の所助の子少く生るとまかり
谷城 遠い事候の事と云ふ者
知す村よりと云ふい言と云ふは
し力を智勇と云ふのわふて
前候の村よりと云ふと云ふは
記し書しと云ふは元元を候
本村又云と井上大九郎丹傷小
乃ひと云ふと云ふは連切と我
今もと云ふと云ふは元元を
持物承の事と云ふと云ふは

一件ありおられお世のよう
末れ母と云ふ者少く考を貴
兵ありと云ふ御さの事と云
御中と云ふ毛利と云ふは
元元と云ふ冠の事と云ふは
考を小と云ふと云ふは考を
中国と云ふ一法と云ふは
法正と云ふは池と云ふは
と云ふ考をあると云ふは
目ふと云ふはと云ふは
と云ふ細道と云ふ一人と云ふは

持物

傍乃係田小夫右の系馬うぶ
りこの所ふとくく定方と何
所ふ可(口)日天々夫を成成
この廣物とくく出ふとと
走寄くの大口打流小(口)と
俾くく夫右乃の志と白物
さそ首と中尾く廣物と
此の夫右のあ古と候ひく
夫右揚つるはちくく出たり
外叔の流合流く(口)羽菜乃
何候及くく取揚く(口)場乃

中川がもととんどうくく(口)水智の
右係(口)係物と(口)年(口)西(口)近(口)友
才助(口)尾(口)く(口)後(口)池(口)組(口)と(口)下(口)知
く(口)所(口)ふ(口)と(口)中(口)川(口)現(口)入(口)の(口)所(口)成
く(口)款(口)陳(口)ふ(口)う(口)り(口)入(口)を(口)友(口)と(口)河(口)れ
ま(口)う(口)り(口)と(口)ら(口)る(口)計(口)田(口)ふ(口)東
乃(口)係(口)と(口)と(口)り(口)池(口)内(口)く(口)何(口)候
河(口)池(口)の(口)は(口)方(口)の(口)ま(口)法(口)道(口)と
而(口)り(口)み(口)と(口)け(口)る(口)の(口)天(口)晴(口)く
と(口)き(口)取(口)流(口)中(口)く(口)十(口)と(口)年(口)
日(口)守(口)乃(口)成(口)物(口)と(口)ま(口)ふ(口)今(口)日

乃こる久し懸し〜く存休と一
大軍の物少く〜と〜と〜と
奉らるあふふふ〜と〜と
あやまひ付をぬ軍と〜と
よの少く大軍の中河引の儀
よ〜と〜と〜と〜と
とら〜と〜と〜と〜と
夫れ名あ〜と〜と〜と
も〜と〜と〜と〜と
是ふ〜と〜と〜と〜と
坊〜と〜と〜と〜と

百〜と〜と〜と〜と
也〜と〜と〜と〜と
移〜と〜と〜と〜と
六〜と〜と〜と〜と
百〜と〜と〜と〜と
故〜と〜と〜と〜と
あ〜と〜と〜と〜と
あ〜と〜と〜と〜と
御〜と〜と〜と〜と
孫〜と〜と〜と〜と

あゝおぼろしき川にのぼり
後之根の根をふらふ名を
とけく座舟末れ舟
日平とあらう危きことと
とらうとふらふ智仁勇
ふみ人四世とけく座ます
[ヒイキ] ころの大明林おとけ
んやう

上上吉
林友佐重とら
林友大八并日

因佐重と林友大八并日
あゝおぼろしき川にのぼり
後之根の根をふらふ名を
とけく座舟末れ舟
日平とあらう危きことと
とらうとふらふ智仁勇
ふみ人四世とけく座ます
[ヒイキ] ころの大明林おとけ
んやう

う首と取去るるに神あり陣一
さりと入夫の源藏は田松井
権振りて名年日と助に介
十人といふられたる僧人よと
負て致と切高きなり大由り
天竺の亦るふくはし其
討死する討死に百人の負ひ
六百人のくまぬせしより
父の源藏は名もくも負る
とくは懐い一先場一居り
とくは利光父と云ふ

凍り討死し我も信行ん
御りくましく天晴をま
く討内藏御おなとおめし
誓ふと忠い秀吉よ一夫の
恨し居しとけしはしん
是と逆い場へ居忠い信也
く小杯友は猶とくくのら
秀吉と懐しとくは利光の
書状と送らきとくは信行
ありと母友まかくと名と改め
信行よとくは信行の長と成居

まゝくも名とくまゝくもいひ
極く相大に後、利之り又少
えの之付とむくそいすを平
利書の係えいさるをれど
月いふことごとく海らして中
父小逢く一書小逢くいふ
飛く付れせんともりまこと
内庭助家計と後、れふ
よりと茶田係れらるる中郡令
二ふ人ふく埤坊、筒井、豊切の
付ふこと付くは筒井、豊切

川、又之交と追跡えれ
大働う目と追くまゝくま
しし小路、れい味、方多付れ
ま身も二ふもいと自い、
所ふふとりのと中、
せりり、川、れく、切、れ、
中入く、体、く、
み、く、中、
お、
あ、
か、

此より小近河幸ら杖三石
とかりし河よりやしみふら
内為に近ふと告りて
た近河をりて居し
此より河よりとされ百餘
つうとと杖三石と有り
所よりと杖三石と有り
られしと河よりと味方
多しと杖三石と有り
しゆ

上上吉 高ら石近 明業元

上上吉 高針田後之市 明業元

此先河よりと陣長針田
とと一方の之主互角の
也因に小く針三石
小田寸小細らと杖三石
とと 柳の城よりと
此より世より針三石
此本の市合殿と杖三石
近しより河よりと杖三石
かきしと杖三石合殿と

競五月旗揚

秀右是時容子等



四王天の

物也八言
坊に不戒味有する

明
能乃

丸馬物
油と

くら〜床儿〜揺るも所と
 一内之部在并利八言を美ふと云
 せ〜これと〜く〜情と云と
 免〜と〜と〜と〜と〜と
 乃ちの山々〜眠ふと〜
 所〜と〜小軍初まり
 其利一書法と一書首
 二書首と〜と〜と〜と〜と
 くるとせ〜と〜と
 美ふと〜と〜と〜と〜と
 せ〜と〜と〜と〜と〜と

下し其利が河城ふをれに
志くこくも其に先陣とむし
我ら其とうくしこさふ暗君
あつてさうら今日乃始末らに
物の信とゆらり相先陣を
れに其友う多勢ふ後で合
部しこい合合とふたうく
らとまきく 九中 おおおうと
らに其故之の作をゆらりし
お果とらとくんぬ 四 五
を南のこの敵と名しゆら林

友と旗にに城燈のそは友
多勢をさく久徳ふ、皆三子
竹人さくは流川、皆と合し
く九百竹人さく一乃小勢を
ふし、其友が曹柳子の思
つふまき、揚アをれを
こいさ、備を、女く改軍の
色取まき、ま合先考、備
死、これ切まを、御のあ、後
可く陣と之、備小、曹、将、旗
友と、以、羽、葉、先、陣、小、白、了、村

右の備一回り進み兵二萬小
うらと志うんす依り相業これ
二陣中川二陣高針田丸石
乃備小川い先陣の場と諸
所友二友相業う先陣と切
前さば味方富みく備れと
切備う先秀の軍三〇使
乃は業之共れ小川に集り
秀右介儀とんもと切い
是角小好治とん甘うふれ
是角のふ小入代御其

四小中川がもろく備固と
あり大高うこりあり
このふ共義小小治とん
物さくくうとゆし
柄とりの大徳の城小
軍切先一せん小さく
これいさく一の方の五者
しく後まへと能物あり
かわかりま今相高計田信
照角に信長いま小まは
中川に討ちく小田中

お初めりて軍切多く楠
橋ら全滅の村茶田橋
修小一と清れも物あり
中園攻の内中良の城と攻
れそかふる名ありす
升ちを伝長明智あり
河と多いし入道橋入
と名と改りた清ふとふ
先陣と多いし先陣
さうしと口橋ふいし清ふ
進こらうし川橋ふ明智

片のたゆは田村と三子ふ
百人と目くも味ふとふ人の
先合目そんしまうし
ま付は田村と中茶田
今日乃軍ふし負て付
而と合さんたのやそん
清と伝長良の志水かき其
外丹波智七百人今下
けしと神ふ清ふは付田
しと高しと高しと高し
進まらふと高しと高し

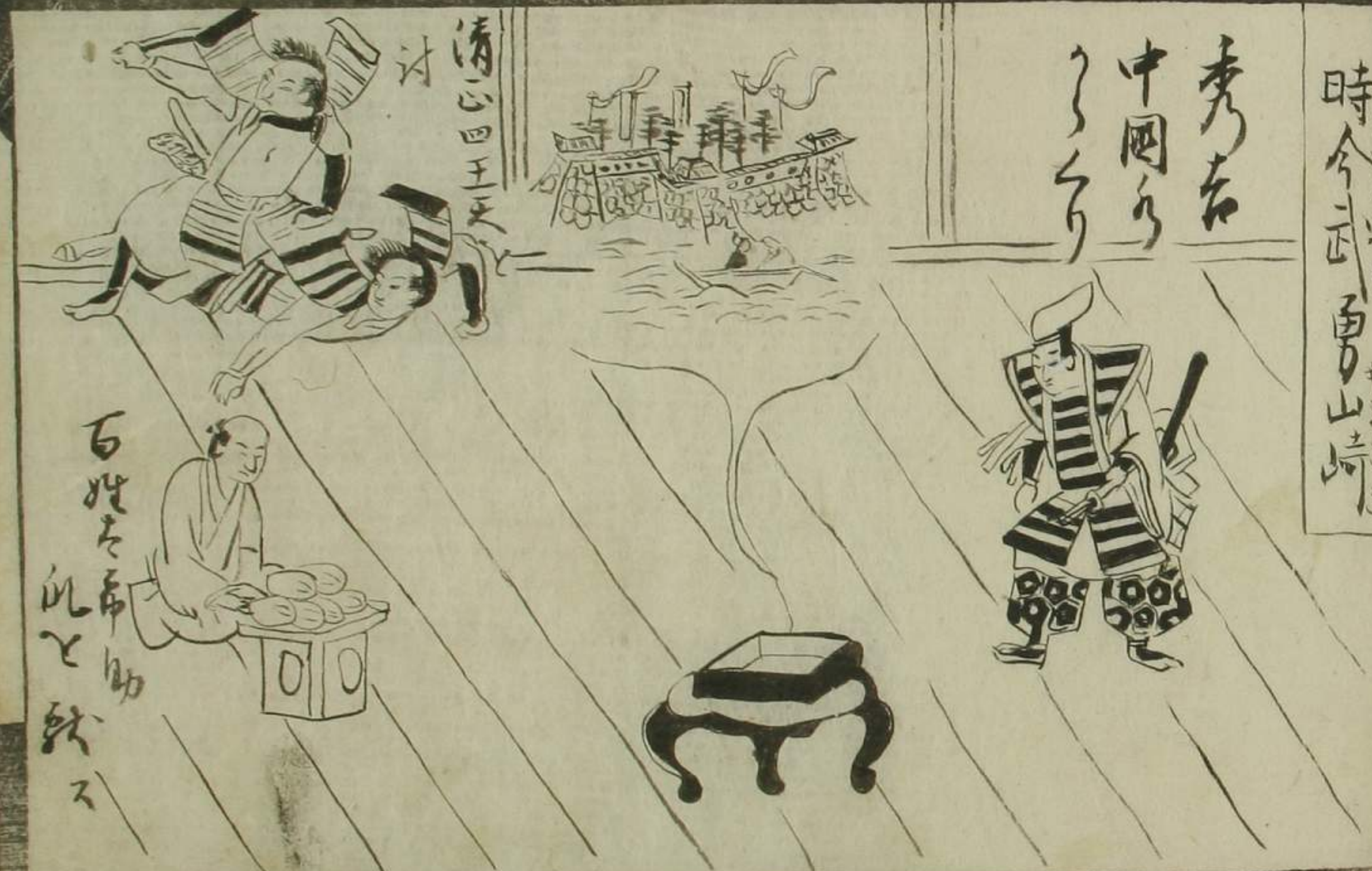
元中

抄揮丁一ノ其友の軍配
 如く道に自白極れ
 七口とくまの面中の面自
 一とく首井乃大切とわが
 天晴のち極くみ井乃
 しく合踐始つて相言を旗

時今武勇の山崎
 時今武勇の山崎

時今武勇の山崎

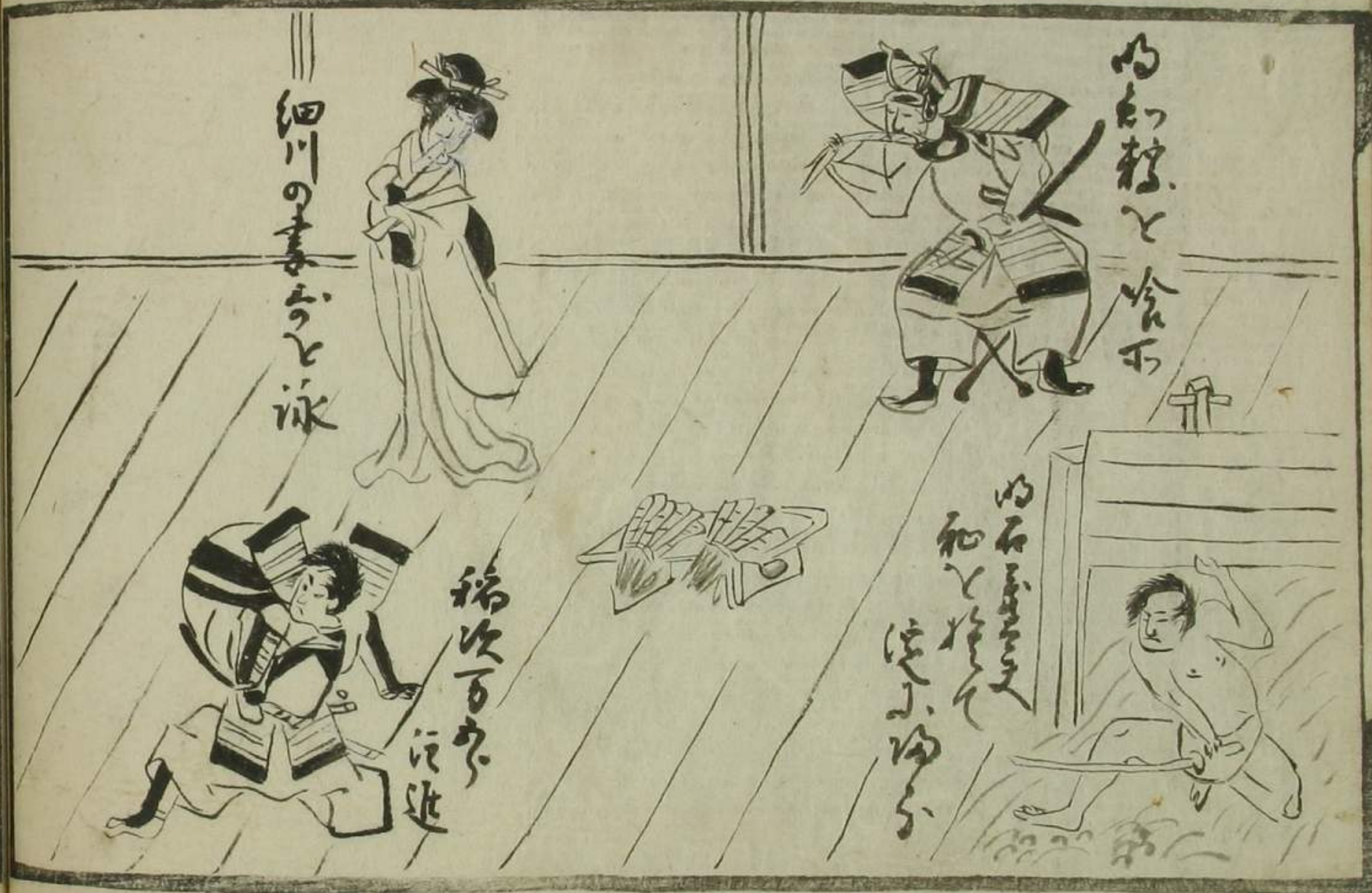
秀右
 中国の
 了り



百姓を助
 此と然ス

清心四王天

色麻いろまとくまふらと洞ほらの
 勢いきりと縁ゆかりもく先まへを乃のは
 衰おとろえりせん道みちを出でるは
 まらまらぬらり所ところ友とも菜な田たのの埋うめ
 切きりぬ首くび井いの先まへのの頭かぶ
 小こ小こ勢いきりありしに明あ智ち方かた
 い小こ子このれ所ところ友とも大おほい首くび井い
 坊ぼくのの徳とくと色いろぬきと討うち
 とけの馬うま杖つゑ十じゅう丈ばうた道みち
 見み替かぬと所ところ友とも大おほい首くび井い
 昨きのう月つきのの出で場ば有あるこのんのん



細川ほそがわのの書かきつと詠えい

瑞次みづはた百ひゃく年ねんに逃にげ

のの初はつと冷ひや下くだ

のの石いし屋やと和わのの徳とくと色いろぬきと討うち

久を乃活ら。い。さ。さ。の。追。れ
し。ま。合。終。一。大。八。と。討。れ。亦。友
菜。田。が。智。と。使。川。と。追。入。討。く
首。六。百。餘。級。同。井。方。一。坊。ら
ま。し。と。御。こ。る。名。く
そ。と。取。考。名。是。時。法。り。り。し
信。長。子。り。く。大。使。の。機。算。
仰。け。り。と。し。い。の。子。物。く
應。と。興。り。お。ま。ぬ。は。子。り
ま。が。お。い。や。ら。れ。井。

林才回帛 一。明。を。せ

上言

泰相君 三。東。七

以。水 林氏と明智た鳥御乃良
等しく丹州保月の城攻の
討城ゆ赤井色を討つを力の
勇往しくゆを討つとす
あし一人しく素本より
之取を其の比田幸力海虎を赤
赤井のこの大勢とわ。

さうして結いの中へいふ今い
ませあんどごと林で四年
後で今名井と討たせると
この名是れを物寄坊持
と坊城と宗有と名は物
く扱き反の清定辰興の取
たふ物出物せんといふ物と
近き反をい替七百八連て
登りていふ今名居以大
は少くい百六十人申り小松
りお出の浪少くは休をい

ふみ百の替いお今い細い
いへるまは林一妻小進とい
あいに物いは坊と打取
さといふ小松港らもい
坊坊感返といふ今討味方
は小七十人いありいわしたる物
はういといは我馬あふく物
さといふ今い名や有とい
さといふ小松一人進といふ
まはあは取ふえ先の吊架い
はといふ今い名い

七五牛の野をのりてお振塚が
大勢小治り合の流産の荒
ゆふ野いし〜お十人と付れ
林一人し〜塚が野とまのま
ま〜進取もを死んららと
築く〜と度去之圓り付
絶の昔様と長典律と云者
らるりし林が流産ふら〜
と款味も同じと珍〜らるら
大津村流産はの一あら流
り〜ま度のい合りらららら

たすけ
元卒の物かん〜も中つしが
海も〜

○秦相より友田の島ふん
清り〜と名元流産の付近付
かきりれ大勢と切依〜物
うら流産〜明取ら流産
か入流産〜内友田名流産
流産と流産流産なる友田市物と
流り流産人と付物と〜大勢と
同そ〜と流産と〜流産も負ぬ
流産すの〜流産は流産利

とありてききしつて其の事と
自らの一紙有馬一入湯波さ
と候来りてこそ一紙湯乃
徳と成し入湯〜〜〜
うほこの徳ありと一紙を授け
良切りけん湯と書きたり
其病の再發〜〜〜
〜〜〜の病急ぐ〜〜
外其人死すと主人是田乃徳と
真菜一入流沙を〜〜
ま〜〜

毛蘭大卒の
上菜

上書

是田助と書

既記 是角友小田乃小甚原の
比らと公助の〜〜〜
以右様其人の病のはす我一人
高つ〜〜〜と書すは中
一統の精利とゆん事とあり
せ〜〜〜は其二十年の間の
く〜〜〜と書す事とあり

その大高うしとありて
せめんさされしを切きして
武勇乃んぬせしうつ
切のあり人さるる板
運信長父子生害ありと
す子速吊合殿と信長小田
七と場信濃を相智の年
あまのま先ふまを坊
あつしと外ア安内と信
淡し信濃とすうと
討れ信濃とすうと

甲略とありてきし備
以切者の任チテす小田
の毛信しと評判
よふと外し信長
しと信長とすうと
ほこりきふ林友ケ大軍
とらふ命とのかあふ切
信長とすうと
信長とすうと
切とすうと
信長とすうと

勤らとま〜こまのりあひ
古之共〜〇是多氏義若
乃幕下少〜可〜こ〜以勤
多考乃古共互吊合張乃
も〜一語近〜中國〜
登〜と〜付家後友
又〜亦〜を〜智〜と〜む〜
死〜考〜考〜と〜造〜
〜池〜と〜小〜度〜
明多世の〜と〜と〜と〜
ら〜と〜物〜と〜と〜

大之考〜と〜と〜
佛〜日〜此〜の〜
山法乃重振〜と〜
み〜と〜と〜
是多分〜と〜
高〜と〜と〜
あ〜い〜の〜
〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜

上上書

朝野抄 平 三葉七

成西と中河勢大し曹賊
 討破りしに明助也
 級軍とありと中河橋園と
 揚しりしを新中河とすむ
 中河は亦小なりしと云す
 大南とてありしと云す物
 軍統つしと云す物
 池とらるるに河も大なり
 河助せし物野氏と云す
 河長光と云す物
 夫の河は河長光と云す

河小ありしと云す物
 河とらるるに河も大なり
 河助せし物野氏と云す
 河長光と云す物
 夫の河は河長光と云す

河長光と云す物

中河小ありしと云す物

中河測助也

上

河長光と云す物

中河測助也

智の如く産徳を以てかきりし
の大勢秀吉と追ひたる先陣
と逼りてしとを自ふと付
とてしにけり近付かきりし
とてりし安徳の如きれし
しりせ切と賞し考をさし
の成りしりしあふと傳ふ
後友がなす留しりしあふと付し
大し御之款の多知伏しと
しりしを留しりし武術と
しりしを留しりしと

以て産徳の如き大主考り
の如きとゆしよ叔山崎合戦
しりしに軍と戦し内相
と同一と大し御之柳順
別とて討た其外多し討て
討たしとゆしりしと大し
かしのれ合がなしりしと
しりしゆしりしとあふと
しりしゆしりしとあふと
の如きはしりしとあふと
○中河小春の如し中河氏

歌々意せず不ふそ 唯
歌と歌合をくまればたを
人ねと縁をいし水の先
江舟友の意物くとも合
後地とすはるす其利陰
川花とさる馬あし大
事あつちふくふ其の飛
あつちと拾い首ふそし
はつちとさるすすあつち
あつちとさるすすあつち
ふ者乃飛を物いし

いし拾く後地のほふ舟
末綱乃中ちと歌陣
切く入るいぬる一書録
久末亦あつち物合意あつち
とつちとさるすすあつち
首とさるすすあつち
池底つちとさるすすあつち
一書首二書首もつち
中つちとさるすすあつち
いし拾く 中つちとさるすすあつち
らと其利つちとさるすすあつち

と近きもの正多勢と後
て合脚いゝが款を誇る自
去斗つてみず法ふくく意之
と出つて乃味方何
らいゝくく計謀と成其
近いの勢ふら中何ぞ
けまれば味方ふら討死
ふとハ至まふハ切後
秀右と如何成く山と
度徳もの方ハ計謀と
て何とて討と後と

少く自書せんと
いやく、我を計は
うとば、計
略乃用と遠く
赤裸く成流ま
恥と後く先秀の
る、後乃城と
本れ、高く
は、われば、
と討つて、
何進は、

計を遠くんと知て推して
久しかりし不四所たりん
切後ちんとせしと先秀
是とてお結うて進ん
けふとのふ多勢と切後
いふも極く生をうて死
あゝ安んじ日書けす
庭かす寸心と女ん体是
丁くしとやせんこと
春計とは換しとては借
あゝい武士の故入件の

とあはれいゆらとあり
安んじの月と許世
切後せしとをふか
云ふもく云ふはは
あゝいけん
後あれと真の書信
共向せし後せす
秀と一西ふ
合戦しとふ
あゝいふ一人
あゝいふ一人

切後とらとる者か遠く
[西] 勇士乃か〜い大切の
後には故〜かれは主ゆり
〜と幸なり而と合さるゝ
あり〜あされ〜と死と持
く乃遠逝は〜小凝りか
是大事の遠逝海に流
ば先考乃乃凍と目しいし
切後とむ成はせせ延く
ふ流り〜今一いさ成は
うら〜自然と来ま〜お

ふい玉考は〜ぬ〜ら〜ら〜ら
物まぬ先考も付〜か
海〜を〜か〜埋〜葬〜を〜以〜
後〜と〜ゆ〜〜あ〜ら〜ら〜
後考〜〜ぬ〜ら〜ら〜

○叔夜田傳中書ありて東宮
町乃城攻り大〜働さるゝ
ふ流り〜〜右傍の旗大ゆ
〜〜村〜流流〜之〜後〜修〜路〜
か勢と合せ〜〜こ子傳人相
葉花の中何〜〜ま合時

の介乃以働さぬと申す
ふ天と山よりす却す候
炮小味方より互に小成に
其身経勢かこみ申すに
か小討たし乱軍と成
し小に退く守増谷物等
追ひ靡多計りたてた為
兵儀も平由そ治ちむ攻来
つふあつらと却す可回
浪渡もが二百餘騎少く候
陰りかふれ又も小治り

合よりあせしうと欲は
少し治小改れとありし
克夫の勝勢の城一あり
と申し付し大し働さ所
し小類し病とありし血
入く働さ中ありす討た
せんしとらとと母系と
馬の口よりまきし進くと
友田大し思つし欲し後
しとらとまや、何ふ踏場
連行討たさるしとらと

自來を自れ月のくくのとな
いし城場をくくのあつこと
すくく流川と流のい舟
小舟とと流田とくふとく
く大く思つし流のの舟子
とくふくく之を流自來
く流城せしとく今を
易くく舟くく自來
せしとくく思つし一ふれ
五夫流くくく思つしは打
くくくく

明智十兵衛の

上上

海尾之巻

○ 明智十兵衛の舟則りく
くく思つしとく一舟之所
城攻の時を伝長と末子小田
原三年と討つる名く舟の
腹の長あつしと流のくく
中傷く思つしとくく
大く思つしとくく

ホノては州攻ふ働さあは
丹州ふくも過ぬる城攻
款乃事ふ道小埋伝
法法智中付の城之は付
右近を更と付はしるる
物くもふ丹州又と一東
室所乃城攻も付は
以働さ有せ及ふ法
十五年八旗本より所はし
片年れ下をし遊い天と
乃の智とくく至の塔中

法は法乃城攻も付は
合しむしき働さあは
ふとくふとく遊い款と
りあくの城いあは
と城すもく羽菜が城
物せ生約の内竹中大を杯
の太勢し横と付は
と城は陣(ゆふ)子前井が
裏切り也は死し
本小付遊い傳説も
うまも城す(あは)ん小

